

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500343
法人名	社会福祉法人 道海永寿会
事業所名	グループホーム いこいの家
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字道海島660番地1 (電話) 0944 - 88 - 1011

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8F		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	10月17日

【情報提供票より】(平成19年8月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋建て造り 1階建ての1階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(8月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道海クリニック / 高木病院 / 大川メンタルクリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人道海永寿会は、高齢者の能力に応じて、可能な限り自立した生活を送り、地域で暮らし続けることができるように、で最も必要なサービスとして、施設サービス・訪問サービス・配食サービス・通所サービス・短期入所サービスを提供している。グループホームいこいの家もその一環のサービスである。グループホームの敷地は広く、庭には観音様があり、入居者や近所の方がお参りを楽しんでいる。また、開設当初より、認知症予防プログラム「学習療法」を熱心実践しており、その効果について発表する予定である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果については、職員全員に知らせてもらうため、グループホーム内に掲示している。要改善・指摘を受けた項目に関しては、再度見直しを行い、運営が円滑に出来るよう取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となって、職員に自己評価の意義を理解してもらい、全員で自己評価に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、公民館長・家族・入居者代表・管理者・市職員の構成で、グループホームの活動状況をもとに、意見交換を行っている。また、避難訓練にも参加していただいている。特に地域の代表者として参加してもらっている公民館長には、災害時の協力も依頼している。外部評価については、その目的や評価の結果について報告し、家族などからの意見を聞くなど、評価結果を公表し、問題点や課題に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には、定期的にグループホームの行事等を中心に入居者の様子を「在宅支援便り」として郵送している。家族の面会時には個別に報告している。遠方で面会に来れない家族には、月に1回、電話で報告している。苦情については、受付窓口の設置・担当者の配置・事実関係の調査の実施・改善措置・利用者および家族に対する説明・記録の整備など必要な措置を講じている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	グループホームの敷地内にある観音様に近所の方が気軽に参拝に來たり、切花や飾り花を持参してもらうこともある。地域の方や子供会が法人の行事に参加してもらったり、入居者が地域の行事に参加したりと積極的に交流を図っている。老人会や自治会の依頼を受けて、「介護保険について」「認知症との向き合い方」「家族としての付き合い方」などをテーマに職員が介護劇を演じるなど、認知症の理解を高める活動を行っている。具体的にわかりやすいと好評を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に」という姿勢を法人の理念に掲げている。事業計画の基本方針を「安全・安心・安楽な生活を支援する 能力に応じ可能な限り自立した生活を送れるよう支援する 住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう支援する」として、理念を実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	大きな字で目に付きやすい場所に掲示されている。また、研修を通じて理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区公民館長に運営推進会議の委員を依頼し、グループホームへの理解と協力を働きかけている。老人会や自治会などの依頼を受けて、職員が芝居を演じる介護劇を披露し好評を得ている。敷地が広いこと、法人のサービスが種々あることを活かし、地域とのつながりを深め、認知症の理解を高める活動を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は、グループホーム内に掲示し、ホームを訪れた人は誰でも閲覧できるようにしている。また、改善・指導を受けた項目に関しては再度見直し、円滑な運営が出来るように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの活動状況などを報告し意見交換を行っている。また、避難訓練にも協力していただき、参加してもらっている。地域代表委員の公民館長には、災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして参加してもらっている。その他に市の担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取組みを折りに触れて伝えるなど状況を報告し、確認や相談をしたり、指導を受ける連携体制を構築している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人センターから、資料を提供してもらい制度についての理解を深めている。又、必要に応じて、利用者家族に説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や遠方のため面会できない家族には、電話で月に1回報告している。金銭管理は、出納帳を作成し、家族からサインをもらっている。定期的に「在宅支援便り」を送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には意見箱や面会時に意見を聞くようにしており、手紙などで定期的に報告している。また、グループホーム運営規定の中に苦情処理としての項目が定められており、入居手続きの際に説明している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしており、入居者と職員のなじみの関係に配慮しながら、入居者のダメージを防ぐ努力をしている。パート職員の異動はない。職員がパート職員を指導できるよう教育している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	法人採用規定にそって採用している。年に2回ヘルパー(2級)養成講座を開催し、受講希望者には、受講できる体制づくりを構築している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待防止・接遇・人的環境についての研修を行い、人権意識の向上に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	勤務年数や役職別に現場を離れて研修を行い、資質の向上に努めている。また、その研修内容の伝達講習や年間計画を立て、それにそった研修を各部署で実施している。職員の資格取得に向けた研修も行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	毎年11月に東北大学の教授を招き、学習療法研究会を実施している。今回、西日本の学習療法を導入している施設が一同に集まって、研究発表・意見交換会を行う予定である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、必ず見学をしてもらい、職員や他の入居者と接する機会を設けている。また、入居について、不安のある方は、同じ居室での家族の宿泊も受け入れ、家族の協力を得て、安心して過ごしていただけるように支援をしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者と馴染みの関係がつかれるように、方言を交えてコミュニケーションをとっている。また、料理や農作業などを得意とする入居者とは一緒に作業している。毎日の暮らしの中では、洗濯物たたみ・掃除の手伝いなど役割を果たし、能力を発揮していただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居申し込み手続き時に、生活歴・職歴・既往歴などのアセスメントを行い、利用者の生活パターンに応じてサービスの提供を行っている。日々、入居者の思いや意向を気づきとして記録するなど、毎日のケアの積み重ねの中で把握していくことが求められる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	包括的自立支援プログラムの書式を用いてアセスメントを行い、介護計画を作成している。		記録を整理し、日々の職員の気づきや利用者の気持ちなどを記入し、個別に計画に反映させ、入居者の暮らしの楽しみごとを支援する取り組みが求められる。今後は、センター方式の考え方の導入も検討している。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	入居者の状態変化について、多様な記録を検討し、職員は情報を共有している。その中で状態変化があった場合は、サービス担当者会議を開催し、ケアプランの変更を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族の要望があれば、入居者と同じ食事をしてもらっている。また、個別の外出支援や利用者の状態に応じて、法人内の別のサービスとの連携を図り、家族や入居者の不安を取り除いている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の希望する医療機関への受診を行っている。また、法人内には医療機関があり、主治医がいない場合や緊急な場合には対応出来るようになっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重症化した場合や終末期については、医療との連携をとり、家族を含めてカンファレンスを行い、入居者にとって最善の方法が選択できるようにしている。今後は、法人として、ターミナルケアに取り組み、看取りまで支援できる体制づくりを構築する方向にある。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	人格の尊重は法人・グループホームの基本理念である。全職員を対象に研修や自主勉強会を実施、実務を通して職員の教育や訓練も実施している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	特に決められた日課などはなく、入居者本位の支援を心がけている。飲酒・喫煙なども制限することなく、利用者のペースで生活している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の献立は、法人の栄養士が作成し、毎日、職員が検食し、味付け・分量・色彩・温度など記録している。グループホームでは容器からの皿への取り分け・トレーやテーブル拭き・食器洗いなど、利用者それぞれの役割を担ってもらい、職員と一緒に食事の準備を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	より家庭に近いリズムで生活してもらっている為、基本的に毎日入浴でき、時間帯は午後としているが、入居者に声かけをし、意思確認を行い、入居者の意向にそって対応している。また、入浴の長さも入居者の希望に合わせている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントから利用者の興味のあることを引き出し、残存能力を活かしたケアプランを作成し、洗濯物たたみ・食事準備・掃除の手伝いなど、能力が発揮出来るよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎月2回はグループホーム全体のバスハイク日として、遠方に出かけている。また、入居者の希望により、買い物・ドライブ・墓参りなど個別に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	昼間は全て鍵を開放し、入居者の行動を制限しない環境づくりを行っており、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	毎月1回緊急通報訓練を実施している。また、年に2回は避難訓練を実施し、地域の代表として公民館長に参加してもらい、地域への協力を呼びかけている。今後は公民館長の協力のもと、地域住民の参加の広がりを目指す方向にある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事の摂取量を毎食後チェックし、摂取量の低下があれば医師に相談している。入居者の状態に応じた食形態に配慮し、必要に応じて管理栄養士のアドバイスを受けている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	建物周囲には、30種類以上の植物を植えており、共用空間のテーブルにも季節の草花を飾り、季節感を感じていただけるように支援している。また、自由に仲間同士で話したり、テレビを楽しんでいただけるようにソファを複数配置している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室内の調度品は全て、今まで自宅で使用していた調度品を入居時に持参してもらっている。和室で布団を利用している入居者や、希望に応じて自宅で使用していた冷蔵庫やテレビなど、使い慣れた家電製品を持ち込んでいる入居者もある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			